

羽島市学校のあり方に関するアンケート調査(ご協力をお願い)

皆さまには、日頃から羽島市の教育行政にご理解とご協力をいただきありがとうございます。本市では、10年後、20年後の本市の学校教育を見据えて、具体的な方針を考えていくために、令和7年4月に「羽島市学校構想推進協議会」を設置し、本市がめざす未来の学校教育について検討し、協議を進めています。

近年、本市では、少子化に伴い児童生徒数が減少してきている地域があります。小中学校及び義務教育学校の児童生徒数は、令和7年度5,030名(児童数3,263名、生徒数1,767名)ですが、令和13年度には4,140名(児童数2,603名、生徒数1,537名)と890名減少する推計です(各学校の推移については別紙参照)。これは、1学年3学級程度の小学校2～3校分に相当する人数です。

また、学校施設の築年数の状況を見ると、今後30年の間に約50%の建物が目標使用年数(築70年～80年)を超えることとなります。早いところでは、10年以内に目標使用年数を迎える建物もあり、改修や建て替え等の可否の検討を進める必要があります。

今回のアンケート調査は、「学校の適正規模・適正配置等について」皆さまのご意見を広くお聞きし、今後の学校構想を検討するための参考資料とさせていただきます。回答は、すべて統計的に処理し、上記目的以外に使用することは一切ありません。また、ご回答者個人が特定されることも一切ありません。つきましては、本調査の趣旨をご理解いただき、下記によりご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和8年 月

羽島市教育委員会

【ご記入にあたってお願い】

- 1 氏名を記入していただく必要はありません。
- 2 この調査は、市内保育園、こども園、幼稚園、小中学校及び義務教育学校に通うお子様の保護者にお送りしています。回答はおひとりにつき1回のみとしています。
ご家庭によっては、同じ調査依頼が複数届く場合がありますが、ご家庭の中で、他に回答いただける方がみえる場合は、ご回答いただいた方以外の方でご回答ください。

3 回答方法はインターネットにより回答

- ・スマートフォン等で回答の場合は、右記のQRコードを読み取ることで回答ページへアクセスできます。
- ・パソコン等で回答する場合、またはQRコードで読み取ることができない場合は、下記のURLからアクセスし回答してください。

QRコード

アンケート回答ページ URL: <https://logoform.jp/form/□□□□/□□□□>

4 回答期限 令和●年●月●日(●)まで

問い合わせ先	
羽島市教育委員会事務局 教育政策課	
担当者	〇〇 〇〇
TEL	058-393-4611
Eメール	kyoiku@city.hashima.lg.jp

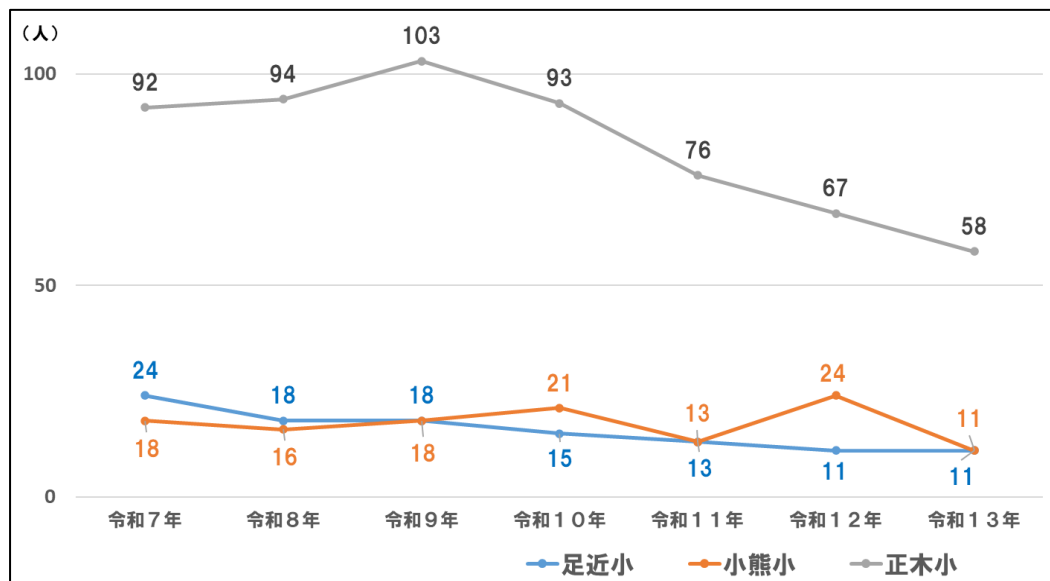
(別紙) 各学校の児童生徒数の推移について

※令和8年度以降の数値は住民基本台帳に基づく推計値です。

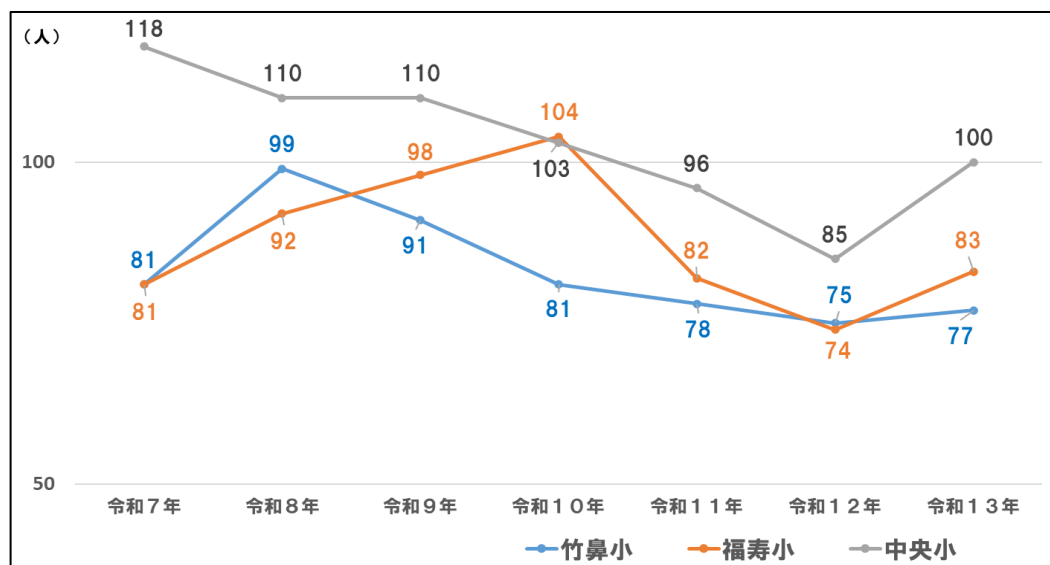
I 各地区別小学校1年生の人数

(北部…羽島中校区、中部…竹鼻中・中央中校区、南部…中島中・桑原学園校区)

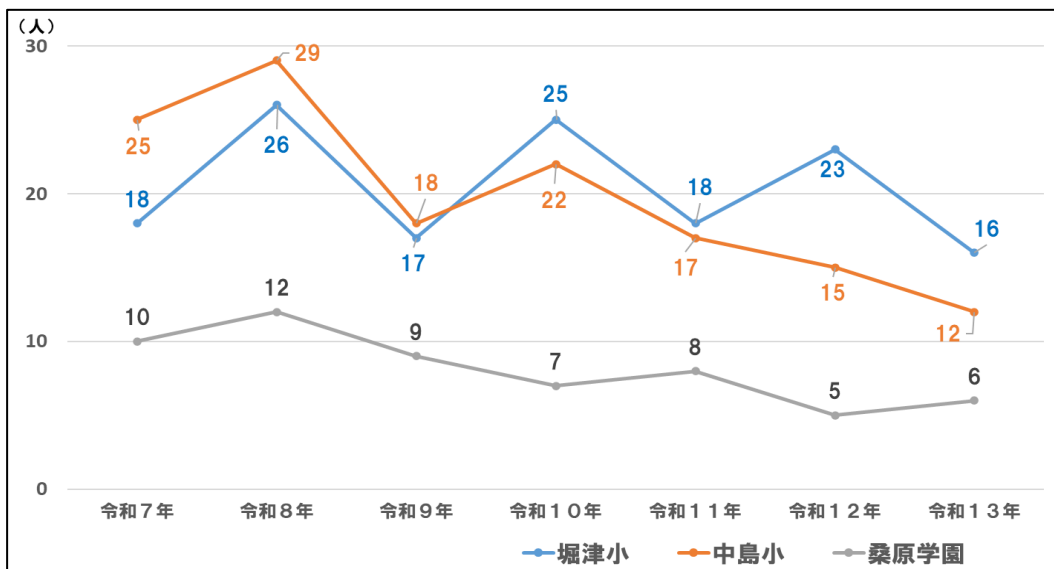
【北部】



【中部】

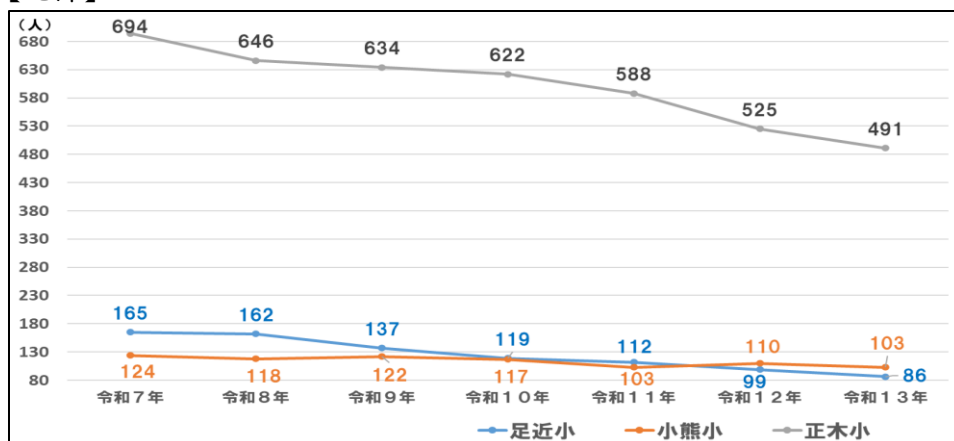


【南部】

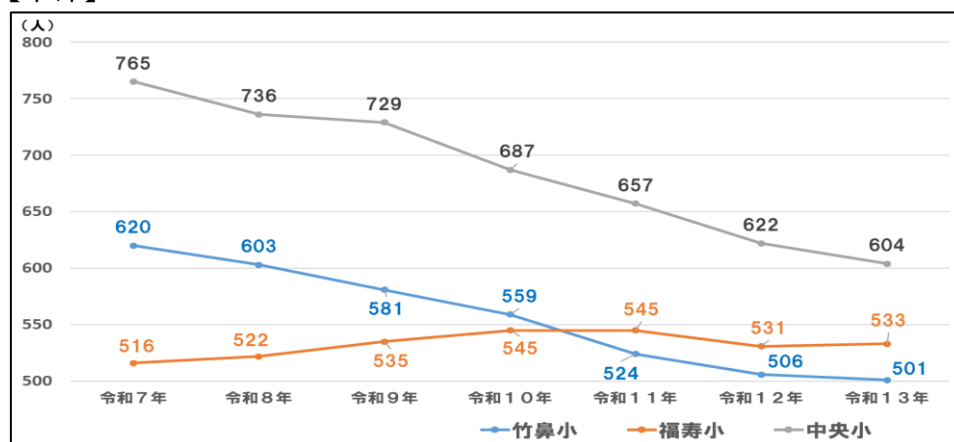


2 各地区別小学校の全校児童数及び校区別中学校の全校生徒数

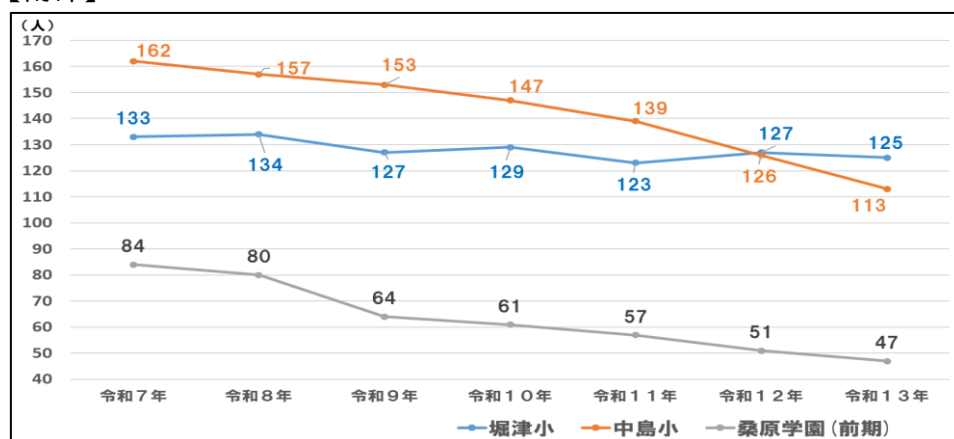
【北部】



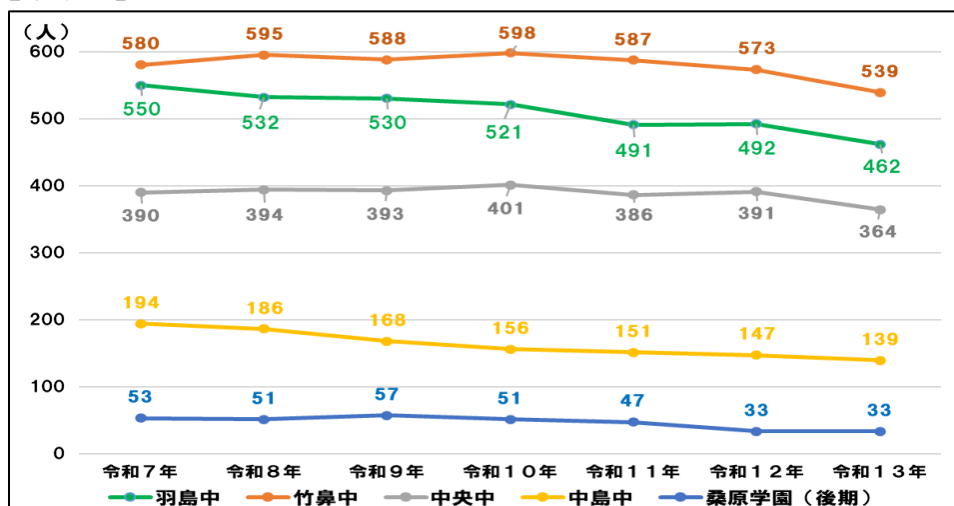
【中部】



【南部】



【中学校】



保護者用(質問項目案)

問1 回答者のあなたについてお答えください。

- ① 保護者(小中学校及び義務教育学校児童生徒) ② 保護者(未就学児)
③ 地域住民(保護者以外)

問2 あなたの年齢層をお答えください。

- ① 19歳以下 ② 20歳～29歳 ③ 30歳～39歳 ④ 40歳～49歳
⑤ 50歳～59歳 ⑥ 60歳～69歳 ⑦ 70歳以上

問3 あなたのお住まいの小校区をお答えください。

- ① 足近小校区 ② 小熊小校区 ③ 正木小校区 ④ 竹鼻小校区 ⑤ 福寿小校区
⑥ 中央小校区 ⑦ 堀津小校区 ⑧ 中島小校区 ⑨ 桑原学園校区

問4 10年後、20年後の社会を見据え、本市の学校教育で育てたいこどもの姿を『主体性』と『協働性』と考えております。こどもが「主体性」や「協働性」の力を育むために、今後、本市の教育内容に望むことを教えてください。項目ごとにあてはまる番号1つに○をつけてください。

項 目	そう思う	やや そう思う	あまりそう 思わない	そう 思わない
① 探究的な学びの充実 (自分で課題を設定し、調べ、発表する活動を増やす)	1	2	3	4
② 個別最適な学びの推進 (自由進度学習や興味関心に応じた学びを増やす)	1	2	3	4
③ 協働的な学習の推進 (グループワーク等、多様な考え方に触れる機会を増やす)	1	2	3	4
④ ICTを活用した学習 (タブレットやオンライン教材を活用した授業を充実する)	1	2	3	4
⑤ キャリア教育の充実 (職業体験や地域との連携を強化する)	1	2	3	4
⑥ 国際理解・異文化交流の機会 (外国語活動や海外とのオンライン交流を充実する)	1	2	3	4

問5 こどもが「主体性」や「協働性」の力を育むために、今後、本市の教育環境に望むことを教えてください。項目ごとにあてはまる番号1つに○をつけてください。

	そう思う	やや そう思う	あまりそう 思わない	そう 思わない
① 柔軟な学習空間の整備 (探究学習やグループ活動に対応できる教室を確保する)	1	2	3	4
② 個別学習を支える人的サポートの充実 (学習支援員の配置や教科担任制を推進する)	1	2	3	4
③ 学校間・校種間交流の推進 (他校との合同授業や行事を企画・運営する体制を作る)	1	2	3	4
④ ICT環境の整備 (Wi-Fi環境の整備やタブレット等の活用支援を充実する)	1	2	3	4
⑤ 地域連携のための仕組みの構築 (地域人材の受け入れや外部講師を積極的に活用する)	1	2	3	4
⑥ 外国語教育を支える環境の充実 (AI英会話アプリやALT(外国人指導助手)の配置を充実する)	1	2	3	4

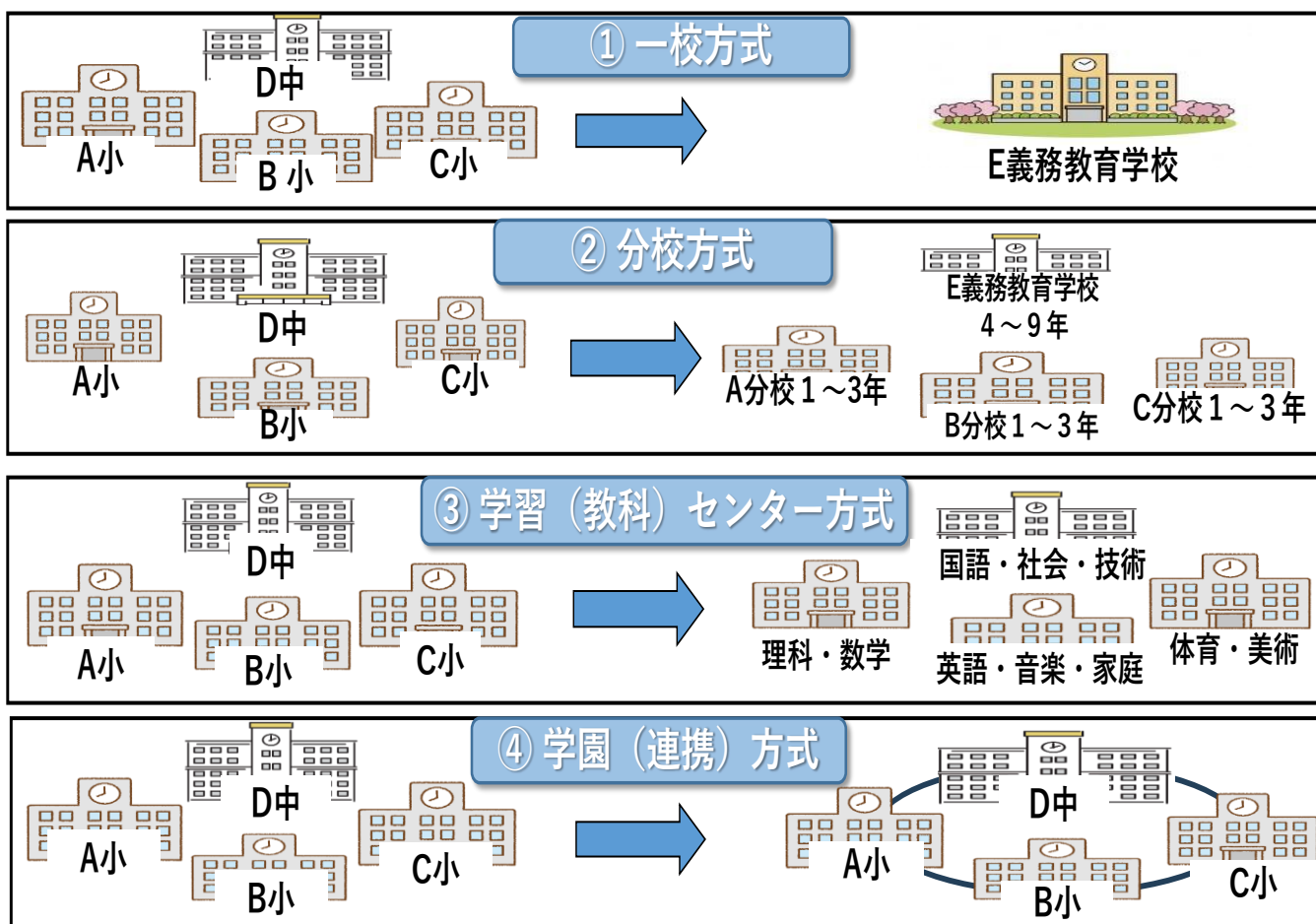
本市では、学校構想協議会やワーキンググループ会議、これまでのアンケート調査から、こどもたちが「主体性」や「協働性」を育む上で、「学級数は2学級以上、1学級の人数は発達段階を踏まえつつ、30人程度が望ましい」と考えております。今後、児童生徒数の減少や学校教育施設の老朽化を踏まえ、学校の規模・配置を見直す必要があると感じています。

※国は、小・中学校の標準規模を12学級から18学級としており、1学年あたりの学級数は、小学校では2学級から3学級、中学校では4学級から6学級としています。

問6 上記の考えに基づき、市内の小中学校及び義務教育学校の規模や配置を、将来に向けて適正化していく取組を進めていくことについて、どのような方向性が望ましいとお考えですか。
「学校構想のイメージ図」を参考に、住んでいる校区(地区)についての考えを1つ選び、お答えください。

- ① 一校方式。学校の統廃合を検討し、適正な学級数・児童数を確保する(小学校のみの統廃合も含む)。
- ② 分校方式。学校数は維持するが、分校を検討する。
(例)3年生までは現在の学校(分校)で学び、4年生以上からは中心校(本校)に通い、共同で学習する。
- ③ 学習(教科)センター方式。こどもが授業ごとに各教科の専門教室(学校)へ移動して学習する。
- ④ 学園(連携)方式。学校数・配置を維持し、学校間の交流を増やす等、連携を強化する。
- ⑤ 現状の規模や配置を維持する。
- ⑥ 上記以外の学校構想(考え)がある場合はご記入ください。

学校構想のイメージ図



※本イメージ図に示している学校数や配置は、検討のための一例です。

問7 学校の適正化を検討するにあたり、こどもの通学距離(時間)について考えていく必要があります。

小学生にとって、片道どの程度までならよいと思いますか。

※国の基準では、小学校にあつては、おおむね4km以内、とされています。

- ① 2.0km (徒歩 約30分 自転車 約12分 車・バス 約4分)以内
- ② 3.0km (徒歩 約45分 自転車 約18分 車・バス 約6分)以内
- ③ 4.0km (徒歩 約60分 自転車 約24分 車・バス 約8分)以内
- ④ その他 ()

問8 中学生にとって、片道どの程度までならよいと思いますか。

※国の基準では、中学校にあつては、おおむね6km以内、とされています。

- ① 3.0km (徒歩 約36分 自転車 約15分 車・バス 約6分)以内
- ② 4.0km (徒歩 約48分 自転車 約20分 車・バス 約8分)以内
- ③ 5.0km (徒歩 約60分 自転車 約25分 車・バス 約10分)以内
- ④ 6.0km (徒歩 約72分 自転車 約30分 車・バス 約12分)以内
- ⑤ その他 ()

問9 その他、10年後、20年後の本市の学校教育について、ご意見やご提案がありましたら教えてください。
(特にない場合、記入は不要です。)

(例)通学区域を見直す、学校選択制を導入する 等

アンケートは以上になります。ご協力ありがとうございました。